



須坂市がめざす新しい学校

須坂市では、「小中学校のあり方検討会議」(2020年)と「子どもの学びのあり方検討会議」(2021年)を開催し、変化が著しい時代の中で、「須坂市として目指す学びの姿」について提言されました。この提言を受け、市教育委員会では提言を具体化する学びの「須坂モデル」を作成しました。

また、須坂市小中学校適正規模等審議会(2022～2023年)では、上記の提言と「須坂モデル」を実現するための学校について、2年間かけて審議を深め、答申書をまとめました。

須坂市小中学校適正規模等審議会答申書の主な内容

① 小中一貫教育の推進

- 小学校入学前の遊びや様々な体験活動によって育まれた力を、小学校、中学校での教育を通じてさらに伸ばしていくこと
- 小学校から中学校への進学にともなうギャップを緩和しながら、子どもの学びをつなぐこと
- 小学校6年、中学校3年という6-3制度にしばられず、義務教育9年間を通して連続性のあるカリキュラムで、力の向上をめざす小中一貫教育に取り組むこと

② 小中一貫教育を推進するための学校の形

- 小中一貫教育を推進するための学校の形として、「小中一貫型小学校・中学校」や「義務教育学校」があるので、地域の状況を考慮しながら検討すること

③ 多様な価値観に出会える学校と学校規模

- 子どもたちがたくさんの友達や教職員と出会うようにすること
- 多様な価値観(考え)に出会えるような学級数と学級の人数を考えていくこと

市教育委員会では、この答申を踏まえて、子どもたちにとってよりよい教育環境を整え、未来を見据えた学校を目指すため、現在、検討委員会等を設けて、新しい学校づくり基本方針(案)の作成を進めています。



須坂市がめざす「新しい学校」

子どもが、学びをつなげ、生きる力を伸ばす学校
 子どもが、多様な価値観と出会い、友と学び、地域とともに歩む学校
 子どもが、自分らしさを発揮し、お互いを認め合う学校

しかし、このような学校を実現する課題の1つとして、児童生徒数の減少による影響があります。

次回は、「須坂市の児童生徒数の状況」についてです。